


第196回 都市懇サロン レポート	市民参加型防災まちづくりの合意形成		
講 師	○(株)都市交流プランニング 技術部長 鶴見 英次 さん ○(株)アイ・エス・エス創研 常務取締役 林 将廣 さん ○(株)国際開発コンサルタンツ まちづくり・交通グループ まちづくりチーム 松下 佳広 さん	開 催 日	平成27年11月24日(火) 18:00~20:00
講 師 プロフィール	○鶴見 英次 さん(1964年生まれ) (株)都市交流プランニング 設立メンバー 道路、交通計画、市民参加等を担当 ○林 将廣 さん(1969年生まれ) 1999年 (株)アイ・エス・エス入社、橋梁設計を担当 2008年 (株)アイ・エス・エス創研に転籍、公共建築物の設計や駅前整備等の構造物の設計を担当 ○松下 佳広 さん(1979年生まれ) 2002年 (株)国際開発コンサルタンツ入社、設計グループ所属(公園緑地、駅前広場等の設計を担当) 2011年 同社まちづくりグループ所属(健康・医療・福祉のまちづくり、立地適正化計画等を担当)	 <p>当日の写真(サロンの様子)</p>	
お話の概要	1. 防災まちづくりとは ・防災まちづくりにおいては被災後ではなく、余裕のある平常時に市民参加により十分な合意形成を図り、事前の準備・計画策定が必要。またPDCAを行うことが肝要。 2. 防災まちづくりの分野別市民合意形成の進め方 ・「行政・事業者」、「地元住民」、「専門家」それぞれの役割分担を明確にし、合意形成を図っていく必要がある。 3. 地域防災力を向上させるために ・災害知識の共有・伝承等の災害に関する市民力を育成したり、防災に対する情報発信、防災の専門家育成等を行っていく必要がある。 4. これからの防災まちづくりに向けて ・都市マスへの防災関連計画の位置づけ、立地適正化計画等を踏まえたハード整備、コミュニティによる地域福祉との連携等を行っていく必要がある。 5. 防災まちづくりの市民合意形成事例 ・沼津市の狭あい道路整備や太子堂まちづくり協議会の防災の取組みについて紹介。		
意見交換の概要	・市民合意形成を進める上では、個々の利害関係等が複雑に絡み、往々にして総論賛成、各論反対といった自体に陥る。これをどのように解決していくかが課題。 ・陸前高田では津波到達点に桜を植樹することを行っている。都が発行した「東京防災」はデザイン面に配慮し、広く読まれるよう工夫を行っている。ある町の防災イベントでは、ゆるキャラを招致し、多世代が楽しめる工夫をしていた。等、防災に関する情報発信や未来への伝承については、固定観念にとらわれない対策が必要。		
記録者のひとこと	防災に限らず、市民合意形成は、今後も必要なことであることを改めて認識した一方で、安易に合意形成の範囲を広げるのではなく、合意形成に至るプロセスや手法を改めて見直していく必要があると感じた。《市浦ハウジング & プランニング 増田亜斗夢》		

